

## 総務文教委員会

### 齋藤 和文 委員長コメント

1. 犯罪被害者等支援条例制定について審査を付託され、質疑の中では今後市が警察との協定、相談窓口の設置、支援金等を行い、被害者のことを考えた条例になることが確認されました。
2. 選挙の現状と投票率向上のための取組では、選挙の現状報告と移動期日前投票所の課題(パソコンの環境システムや設置効果について)のほか、今後の新たな取組として、協議が進み、イオンモール富士宮から前向きな回答をいただき、投票所の設置に向けて検討が開始されると報告がありました。

※令和3年9月議会で大型商業施設への期日前投票所の設置の陳情が出ていますので後日陳情者へ報告しました。

## 環境厚生委員会

### 渡辺 佳正 委員長コメント

1. 所管事務調査で「市立病院事業報告」を行いました。コロナ禍の中でも、医師確保の取組で、診療体制の充実、病床稼働率の増加、経営状況の改善が着実に進んでいます。今後、国の医療費抑制、高齢者の医療費自己負担2倍化など厳しい状況もありますが、地域医療の拠点である市立病院を市全体で支えていくことが大切です。
2. 政策課題である「重層的支援体制整備事業」について、県のアドバイザーなどを招いて勉強会を行いました。これまで当市は地域包括ケアシステム(福祉総合相談)体制を進めてきましたが、これに加えて国の財源裏付け、庁内横断的組織づくりが進んで、今日の複雑な課題(8050問題、ヤングケアラー、一人暮らし高齢者の支援など)の解決に向かうことが期待されています。

## 産業都市委員会

### 辻村 岳瑠 副委員長コメント

畜産ふん尿の処理活用の方法である、堆肥化とバイオマス発電の視察を行いました。また所管事務調査を行い、市の畜産ふん尿の現状を把握しました。

理解したことは、「現状のままでは、畜産ふん尿は余剰していく。」ということです。これは委員の共通理解であり、堆肥化と発電への活用に期待をしつつも、何か別の活用を産業都市委員会では調査研究していく必要性を考えております。

当市の最大の資源は水です。市の酪農業を支えつつ、市の資源を次の世代に受け渡す意味でも、佐野孜委員長が掲げた、畜産業のふん尿処理の課題は重要であると考えています。